

抗菌薬（広域スペクトラム抗菌薬、抗嫌気性菌作用のある抗菌薬）の使用（処方）制限が感染予防に効果がある。
特に、CDADIに既に罹患歴のある症例は再発しやすいので抗菌薬の使用には注意。

Matched univariate analysis of risk factors for *Clostridium difficile*-associated diarrhea

Risk factor	Odds ratio	95% confidence interval	p value
Fluoroquinolone	13.5	3.1 to 58.8	<0.01
Clindamycin	3.1	1.0 to 9.4	0.05
Piperacillin/tazobactam	1.9	0.7 to 5.1	0.24
Cephalosporins	0.6	0.2 to 1.7	0.32
All other antibiotic drugs	1.6	0.7 to 4.1	0.28

M. E. McCusker, Emerging Infect Dis 9:730-733. 2003

C. difficile感染症を誘発しやすい抗菌薬とし

古典的な誘因抗菌薬
・アンピシリン
・セフェム系抗菌薬
・クリンダマイシン



最近注目されている誘因抗菌薬
ニューキノロン

対策：伝播経路の遮断 (by CDC)

1. CDAD症例の個室収容／コーホーティング
便失禁のある症例や自分でトイレで排泄できない症例から優先的に個室収容する。
2. 接触予防策
1. CDAD症例の排泄物を扱う際には、使い捨てプラスチック手袋を使用する。
2. 医療スタッフの手洗いは、まず、石けんと流水で物理的に洗うことが基本で、速乾性アルコール製剤はそのあと使用する。（アルコールは芽胞には無効であることに注意）
3. 環境清掃消毒
C. difficileの芽胞を不活化し病院環境の消毒に安全に使用できる消毒薬がないので、現在のところ、次亜塩素酸Na（ブリーチなど）を使用することが勧められている。
4. 医療機器の消毒
内視鏡等の消毒に留意。

以下の場合には、NAP1/027株による流行のはじまりを疑って分離菌株を調べる必要がある。

- 再発を繰り返す症例や、重篤な合併症を伴う症例や死亡例が認められたとき
- CDAD症例数が増加したとき（一定期間の症例数が2倍に増加など）

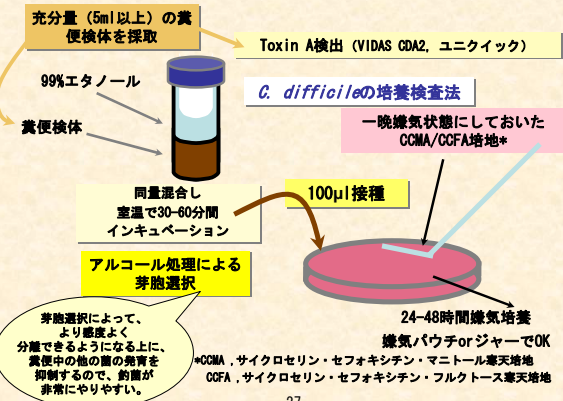
しかしながら、

- 日本の病院では、そもそも見過ごされているCDAD症例が多いので、症例数の増減がわからない場合が多い。
- 分離培養検査を行っていない病院が多いので、菌株の解析ができない。
- 現在使用されている糞便中toxin A検出検査は感度が良好とは言えない。

まず、

- 臨床現場におけるCDADIに対する認識と理解を深める必要がある。
- 病院検査室で細菌学的検査を行う態勢を整える必要がある。
- 一定期間（1-3ヶ月間）にどのくらいのCDAD発症があるのか把握しモニタリングする。

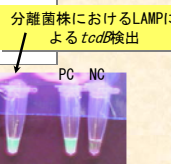
C. difficileの一般的な検査・検出法



C. difficileの簡便な遺伝子検出法

再発時に採取された検体の細菌学的検査（内視鏡洗浄液を遠心ペレットを使用）

1. 洗浄液中toxin A陽性 (EIA)
2. 洗浄液中toxin B陽性 (細胞培養法)
3. C. difficile培養 陽性
 - ・ Toxin A陽性toxin B陽性
 - ・ Binary toxin 遺伝子 (cdt) 陽性
4. 洗浄液検体から抽出したDNAにおける検討
 - ・ Nested PCRによるtoxin B遺伝子検出陽性
 - ・ Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) によるtoxin B遺伝子検出陽性
5. 洗浄液検体一晩増菌培養液における検討
 - ・ LAMPによるtoxin B遺伝子検出陽性



Kato, H. et al. 2005. J Clin Microbiol. 43:6108-6112.

C. difficileに関して当面必要な対応等

医療関係者、医療現場への情報提供、注意喚起

1. 医療現場に対するC. difficile感染症に関する一般的な情報提供
2. 医療現場に対する北米流行型C. difficile感染症に関する注意喚起
3. 医療現場におけるC. difficile対策に関する情報の提供と支援

検査・解析の支援、検査法等の開発研究

4. 医療現場におけるC. difficile感染症の病原体診断の支援(含、情報提供)
5. 重篤な感染症事例より分離されたC. difficileの検査・解析の支援

発生動向の把握と監視体制の強化

6. 医療施設におけるC. difficileによる感染症症例の動向の把握
7. C. difficile重篤感染症事例の把握体制の構築